

家庭での学習と読書の習慣を 確立するために

プロフィール

地域

県の最南端に位置し、周囲23kmの珊瑚礁に囲まれた花と緑の美しい島。与論校区は4集落から成り、島是「誠」の発祥地として知られ、史跡・観光地が点在している。

学校

与論小学校は、明治8年に開校し今年で創立133年を迎える。児童数100名、学級数7学級、教職員数14名。校訓は「至誠」、キャッチフレーズは「Smile No. 1」。

PTA

会員は74名、総務、研修・保健体育、生活・環境の三つの委員会で構成。PTA活動は積極的で、総会の出席率が高く、学校行事への協力も盛んに行われている。

1 活動のねらい

与論島は鹿児島県の最南端に位置し、島内には三小学校、一中学校、一高等学校がある。高校卒業後、ほとんどの生徒は、進学や就職のため島立ち（しまだち）していく。そのため町として幼小中高一貫教育を掲げ、島立のための学習指導の充実に力を入れ、読み書き計算等の基礎学力の定着に取り組んでいる。

平成十九年度、県PTA活動委嘱公開が与論町で開催された。本PTAでは平成十八年度・十九年度の二か年「家庭での学習と読書の習慣を確立するためにPTA活動はどうあればよいか」のテーマを設定し、各学級で目標や努力点を決め取り組んできた。そして、決まった時間に宅習をさせることや二十分間の読書時間を確保するために、家庭での学習環境を整えたり家庭での過ごし方を支援したり、学校と家庭が連携しよりよい生活習慣の確立をめざそうと考えた。

2 活動の概要


(1) 家庭学習の手引き書作成

家庭学習をどう支援したらよいか戸惑う保護者が多かったため学校と話し合い「家庭学習の進め方」を作成・配布してもらった。これには、低・中・高学年別に宅習時間の目安や宅習の内容や進め方（宿題、音読のめあて、読みのめあて）等を提示している。また、無理なく継続できるよ

与藤町立与藤小学校

家庭学習の進め方

○テレビを消して ○きめた場所で ○きめた時刻に

1・2年生	3・4年生	5・6年生
15分～30分 がんばろう	45分～60分 がんばろう	75分～90分 がんばろう
☆ 出された宿題		
☆ 音読 (国語で学習しているところを声に出して読もう)		
<input type="radio"/> ひらがな <input type="radio"/> かんじ <input type="radio"/> プリント		<input type="radio"/> 漢字 <input type="radio"/> プリント (国・算・社・理) <input type="radio"/> 今日学習したところの復習
<input type="radio"/> 漢字 <input type="radio"/> プリント (国・算・社・理) <input type="radio"/> 今日学習したところの復習 <input type="radio"/> 苦手なところの勉強		
☆ 日記 (心に残ったできごとをくわしく書こう)		
☆ 読書 (好きな本をじっくり読もう)		
読みのめあて ・ はっきりとした声で読もう。 ・ 「、」や「。」読むはやさし気をつけてずらずら読もう。	・ 場面の様子を想像しながら、句読点やはやさし気をつけて読もう。 ・ 言葉のまとまりを考えて読もう。 ・ 様子が伝わる読み方をしよう。	・ 読点に気をつけ、人物の心情や場面の情景を考えて読もう。 ・ 気持ちや様子があらわれるように、間の取り方や強弱、速さに気をつけて読もう。

＜保護者の皆様へ＞

- ・ 声かけだけでなく、見届けをお願いします。
- ・ 分からないときは相談ののったり、時には一緒にしだりましょう。
- ・ 音読(声に出して読むこと)は、脳を活性化させ、記憶力や読解力を高める働きがあります。正しく読めているか、聞いてあげましょう。
- ・ 読書を生活の中に取り入れましょう。読書は、お子さんの心を柔らかにします。

家庭学習三か条

第1条 子どもがきめる。
 (先生と話し合ってきめましょう。)

私の家庭学習時間の目標は
平日(60)分間以上、休日(60)分間以上です。
 (保護者としてどのような支援をしますか。)

1- テレビ観る環境づくりをす。

第2条 子どもがきめる。
 (先生と話し合ってきめましょう。)

毎日音読をす。
 (保護者としてどのような支援をしますか。)

でいけ
 読めをす。

第3条 子どもと保護者が話し合ってきめる。

一緒に勉強(たし、読書)す。

「家庭学習六〇・九〇運動」とは・・・
 小学校では少なくとも六十分間、中学校では少なくとも九十分間、我が家のみんで家庭学習を効果的に進める取組を約束し、「我が家の家庭三か条」として、計画的・継続的な取組をめざすもの。

うに二十分間読書は週末に、宅習時間は「学年×十五分」と実施可能な目標(以前は学年×二十分)に修正した。

(2) 家庭学習三か条の設定

大島地区の「家庭学習六〇・九〇運動」を受け、「与論小の子 家庭学習三か条」を配布した。これには、各家庭ごとに親子でどのようなことに計画的に継続的に取り組んでいくのかを具体的に記入し、親子で取り組むことへの意識付けを図った。(第一条と第二条は子どもと先生が話合って決める。第三条は子供と保護者が話合って決める。)

(3) お勧めの本紹介

毎月二十三日は「町民読書の日」であり、前日までに学校から読書カードを配布してもらい、親子で読んだ本や子どもが読んだ本の紹介をカードに記入し、図書室前廊下に掲示してもらっている。特に低学年は、「わが家のお勧めの本紹介」としているため、保護者の記入も多くなっている。

(4) 目標冊数の設定

学期ごとに読書の目標冊数を親子で設定し、図書室廊下に掲示して、意欲を持って読書に取り組めるような手立てを講じている。また、学期終わりには、目標冊数を達成した児童を表彰したり学校便り等で紹介したりして、成就感を味わえるように学校に依頼している。

(5) 各学年PTAでの努力点・具体的な取組項目の設定
全体テーマを学級PTAにおろし、各学年の実態に合わせた努力点や具体的な取組項目を設定した。各学年の内容は次の通りである。

(○努力点 ◆具体的な取組項目)

【一年】

○決まった時間に宅習をさせる。

○週一回の読み聞かせ

◆家庭での声かけ

◆親子で一緒に読み聞かせ

【二年】

○スケジュールを立て、決まった時刻に決まった時間(二十分間)の宅習をしよう。

○家庭と学校が連携して、読書に親しむ環境づくりに努

めよう。

◆漢字・日記・計算・音読の継続と見届けチェック

◆音読カードの活用

◆週に一冊以上の読書継続

◆学期に一回お勧めの本紹介(親子で)

◆親子読書、読み聞かせの場の設定

◆読み聞かせ会(保護者による)

【三年】

○決まった時間に宅習や読書を頑張ろう。

○名前を呼ばれたら「はい」という返事をしましょう。

◆音読読書カードの活用

◆繰り返し声かけ

【四年】

○進んで家庭学習や読書に取組もう。

○自転車乗り方に気をつけよう。

◆新聞掲載「マヤの一生」の音読

◆土日で一冊の読書

【五年】

○目標を持って宅習や読書に取組もう。

◆毎月親子で目標を決めて自己評価する。

◆親が子どもの興味を持ちそうな本を紹介する。

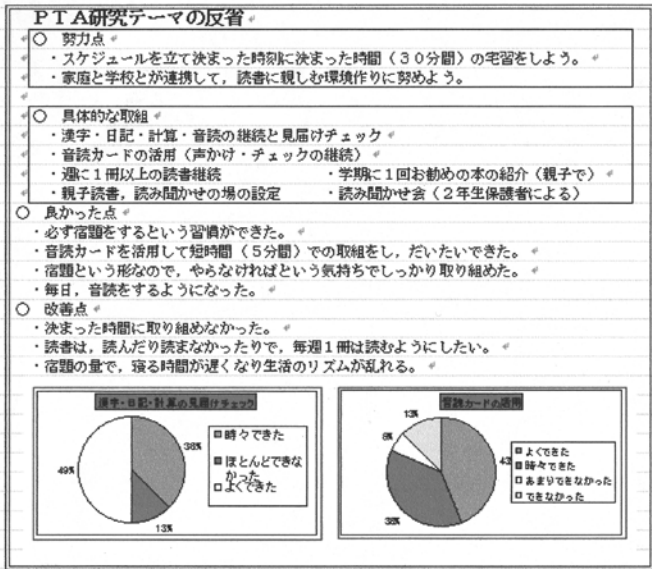
◆本を読んだ感想を聞いたり、内容についてともに語り合う。

【六年】

○目標を持って宅習や読書に取組もう。

◆生活カレンダーの活用

◆個人目標の設定



(6) 学級PTAでの反省・改善

学級PTAでは、毎回テーマに関する話し合いを設けている。学級PTA開催前にテーマの実施状況に関するアンケート用紙を配布し（年四回実施）、集計した結果を学級PTAにて提示し、学校全体の状況や学級の状況を把握するとともに、今後の取組に向けての改善点や努力点を確認している。

(8) 読み聞かせやおはなし会の実施

読み聞かせボランティアグループ「本ゆみゆるる会」には、与論小学校の保護者が数名加入している。そのため、毎週金曜日の読書タイム（八時十分から二十五分）での絵本等の読み聞かせや毎月第四土曜日のおは



放課後子ども教室

(7) 放課後子ども教室（県補助事業）の活用

アドバイザーの先生方四名が毎日放課後交代で来校され、図書室で宿題や分からないところを指導していただいている。子どもたちは、思い思いに自分のしたい勉強に取り組んでいる。



おはなし会

なし会（紙芝居やパネルシアター等）を実施し、子どもたちの読書への興味・関心を高めていただいている。

3 実践の成果と今後の課題

本テーマで取り組んで二年。子どもの学習習慣に保護者の何気ない声かけや見届け、子どもと共有する時間をもつことなどの関わりが必要であることを改めて認識した。また、「家庭学習の三か条」を子どもと決めたことで、意識の継続が図られ家庭学習により関心をもつ保護者が増えた。特に低学年の家庭では、音読カードや読書カードを有効に活用し、読書の習慣化を図ることができた。



PTA 評議委員会

課題としては、各家庭・個人としての取組の差が大きいことやテレビ視聴時間の削減、高学年でのスポーツ少年団活動と家庭学習とをいかに両立させるか等が挙げられる。

これまで各学年で具体的な取組を話し合い、テーマ達成に向けて実践してきたが、家庭や個人によって取組の差があったり、長続きしなかったりしてまだ十分達成できていないとは言えない。今後も継続

的に実態を把握し、結果を広報し、改善策を実践しながら、全PTA会員が学校と連携した家庭学習・読書習慣の確立を図っていきたい。

展望

今も昔も、家庭において親が子どもに対してどのように支援すれば家庭での学習が定着するかとまどっていることには相違はないといえよう。そのような中で、事例は学校とPTAが一体となって「家庭学習60・90運動」を実践すると共に、ボランティア等を活用し子どもの読書に対する興味・関心を引き出した。家庭での推奨本や家庭学習の手引きなどを作成したりしている。その結果、親子の関わり、学校・地域との連携が図れるようになり、家庭学習や読書の習慣化が図れるようになったという。

今後は、様々な家庭の状況を把握し、より多くの情報を提供すると共に、継続的な活動を実践して欲しいものである。